

オートバイに乗りたいその気持ちに素直であれ

mono

一度使うと手放せない

東京モノ歩き〜うまいものさがし〜

バックポーチ大流行! 「今、そこにある江戸」

6-2

www.monomagazine.com
2023 NO.916
特別
定価 750円

モノマガジン特集号

令和5年5月15日発行・発売（毎月28日・16日発行・発売）
第42巻第10号・通巻310号 昭和47年11月23日創刊
新製品から時代を読む

webも
モノマガ!



2023 MOTOR CYCLE REVOLUTION

いま乗りたいバイク

風薫る5月、さあバイクの季節の到来だ! ヘソの下に抑え込んでいたバイク熱を思いっきり開放してツーリングに、林道に、キャンプに、タンデムを楽しむべく走り出そう。君のノド手モノのバイクはどんなデザインか? さあこの一冊のページをめくろう。めくるめくバイクの世界への入り口だ!

オーストリアの
一番星KTMが
惚れすぎるぞ!



SUZUKIの
新顔GSX-850の
美デザイン!



スペインの
GASGASでエンデュロ
デビューだ!



YAMAHA入魂の
ワンツーフাইブ
MT-125!



SUZUKIの
Vストロームで
オフも楽しむぞ!



いま憧れの
ハーレーに
乗る絶好の機会!



ライダーの
お酒落は
SHOEI一択だ!



ビンテージルック
ならイギリスの
BRITTON!



野口さんイチ押し！2023年春の大注目ブランドはコチラ

日本初上陸の新ブランド“BRIXTON”

オーストリアのKSRというバイクメーカーがバイクの新しい歴史をつくりたいという想いからスタートさせたBRIXTON MOTORCYCLES。クラシックなオートバイカルチャーを生み出したイギリスへの憧れと尊敬をカタチにしており、ラインナップの多くもクラシックかつプリティッシュなスタイルが特長となる。シリーズ展開はクロムウェルというクラシックな雰囲気をもたせたスタンダードなシリーズや、タンクにXのラインを取り入れてオリジナリティを演出してクラシカルななかにも現代的なテイストを取り入れたクロスファイヤーシリーズなどがある。125ccから1200ccまでの幅広い排気量ラインナップも魅力のひとつといえよう。

BRIXTON/Sunray 125

車両本体価格52万8000円

クラシカルなスタイルに現代の技術を投入したモデル。セパレートハンドルにバックステップ、そしてミニカウルを装備した典型的なカフェレーサースタイルでエンジンも扱いやすくビギナーにもお勧め。

BRIXTON/Cromwell 1200

車両本体価格149万6000円

こだわり抜いたクラシカルなスタイルのボディに独自の水冷直列2気筒1200ccエンジンを搭載したブリクストンのフルオリジナルモデル。メーカー独自のエンジンでブランドの頂点となる車両をつくるという目標を実現したモデルであり、また、英国オートバイカルチャーの頂点に位置するトライアンフを目標したモデルでもある。

BRIXTON Crossfire 500

車両本体価格110万円

ブリクストンのなかでもモダンなデザインを採用したシリーズのフラッグシップモデル。全体的なスタイルとしてはヨーロッパカスタム的で、アルファベットのXを造形に取り入れているのが大きなポイントとなる。2気筒エンジンを採用し、スムーズかつ力強い走りを楽しむことができる。

世界の多種多様なバイクを輸入販売！アナタはどのメーカーを選ぶ？

現在、モータリストでは5カ国(イタリア、イギリス、オーストリア、中国、台湾)計8ブランドの車両を取り扱っており、そのカテゴリーもスクーターからオフロードバイクにロードバイク、そして電動バイクと幅広い。バイクの人気と需要が高まっている昨今、バイクに興味をもつと同時に人とはひと味違ったものや個性を求める人であれば、きっとそのお眼鏡に叶う一台が見つかるはず！



フェローのFW-06は近未来的なスポーティルックの電動スクーター。剛性に優れた専用フレームのほか、スムーズな加速を実現する自動ギヤ式変速機や大容量&高効率の96V58Ahのバッテリーを搭載する。



その他の代表的な取り扱いブランドはイタリアのファンティック・モーターの「キャブレロ」やスタイリッシュなスクーター「ランプレッタ」、イギリスのクラシカルなスクーター「ロイヤル・アロイ」など盛りだくさん！



GOWOW/ORI 車両本体価格121万円

見るも新新、乗っても楽しそうな中国発の電動モデル

今年の東京モーターサイクルショーで国内初お披露目となった新ブランドのモデルがGOWOW(ゴウワウ)のORI。美しくスポーティな電動バイクは軽量&直線的にデザインされたボディやツイン・スパー・フレームにフルカバーされた大容量バッテリーの搭載がトピックとなる。高出力モーターによる軽快な走りも自慢のひとつだ。

欲しい1台が必ず見つかる二輪界のセレクトショップ的な存在を発見!

君はMOTORISTS

BRIXTON Cromwell 250

車両本体価格70万4000円

手に入れやすく扱いやすいエンジンを搭載したモデルをつくらうとの想いを実現したクラシカルでスタンダードなスクランプラースタイルのモデル。このクラスは幅広いバイク遊びをすることが可能で、マイルドな走りも快適。ちなみに、250ccという排気量は日本特有で世界的には珍しいクラスだ。

僕の想いを聞いてください!

モータリスト 代表 野口 英康さん

男の単車



東京モーターサイクルショー2023でのモータリストのブーステーマは「マイガレージ」。それぞれのブランドのバイクを買ったら、どんなガレージにしたいか……が想像できるようなブースに仕上げられていた。

3月末に開催された東京モーターサイクルショーで大手メーカーに負けないだけの存在感を放つブースを発見した。「モータリスト」である。現在8つのブランドを取り扱う二輪界のセレクトショップ的メーカーの正体とは果たして——?

写真/熊谷義久 文/安室淳一

を知ってるか?

海外オートバイブランドの輸入をはじめ、その他さまざまな二輪に関する事業を展開する会社として知名度が高まりつつあるモータリスト。2020年の創業ながら世界中にアンテナを張って魅力的なオートバイブランドを取り扱い、業界内でも注目を集めている。とはいえ、モノマガ読者のなかには「モータリストって?」という人もいるだろう。そこで、ここでは代表を務める野口さんに、モータリストとは? を直撃してみた。

「会社としてのテーマは、オートバイが好きなお客のために働く、です。輸入・開発・プロデュースなど業務は多岐にわたりますが、メーカーのような存在ではありませんが、根底にあるのは、オートバイを楽しむするためにいろいろなお客を考えている会社、だと思ってもいいんじゃないかと(笑)。現在、当社では8つのブランドを展開していますが、ブランドを見極める決め手

となるのは、見た目のカッコよさや楽しく乗れるということが前提にあつて、あとはブランドとして筋が通っていること。アフターセールス(部品のサプライや技術的サポート)がきちんとしていることやブランドとして信念をもっているところは非常に重要なんです。今後、オートバイ好きな人が幸せになれるようなお手伝いをしたいと思っています」と語る野口さん。そんなモータリストの今後の展開にも大いに注目してほしい。